

大分市埋蔵文化財調査概要報告 2013

平成 24 年度版

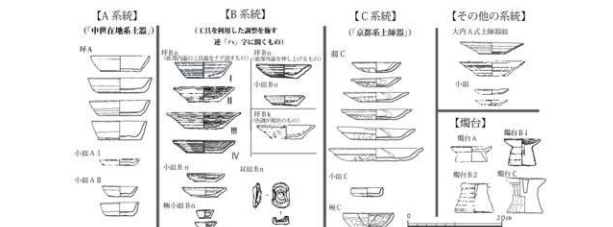
大分市埋蔵文化財調査概要報告 二〇一三
平成二十四年度版



中世大友府内町跡第 100 次調査出土 景徳麟窯系色絵

大分市教育委員会

大分市教育委員会



陶磁器類：大分市教育委員会 2000『大分市美術館 X V—陶磁器分類編—』小野正樹 1982『15～16世紀の梁付陶・皿の分類と年代』『資料陶磁研究』No. 2 (梁付は青花に読み替える) 上田秀夫 1982『14～16世紀の青磁の分類について』『資料陶磁研究』No. 2 森田隆 1982『14～16世紀の白磁の分類について』『資料陶磁研究』No. 2 横前：桑岡美 2005『備前』『全国シンポジウム 中世産業の隆興—生産技術の展開と編年 資料集』横前陶磁：吉田寛 2003『中世大友府内町跡出土の産地不明焼酎陶器について』『資料陶磁研究』No. 28 瓦間・土師質土器火鉢：山村信隆 1990『大分県出土の瓦質土器』『中世土器の基礎的研究』Ⅵ 京都系土師器・土師質土器類：河野史郎 2002『出土土師器群・皿類及び瓦質土器類の分類と編年』『大友府内 4』大分市教育委員会 大内系土師器：北島大輔 2010『X系 大内式の設定』『大内氏館跡 X Ⅰ』山口市教育委員会 在地系土師器：高橋信 2011『豊後府内における京都系土師器輸入前後の土器様式』『古文化研究』第 65 集 (4)

本文目次

第 1 章 大分市教育委員会教育部文化財課概要

- | | |
|-------------------------|---|
| 1. 沿革 | 1 |
| 2. 組織 | 1 |
| 3. 大分市教育委員会事務局組織規則 (抜粋) | 2 |

第 2 章 平成 24 年度発掘調査概要

第 3 章 主要な埋蔵文化財発掘調査概要及び調査報告

- | | |
|-------------------------|----|
| ①大友氏館跡第 28 次調査 (概要) | 6 |
| ②中世大友府内町跡第 100 次調査 (報告) | 8 |
| ③古国府遺跡群第 17 次調査 (報告) | 21 |
| ④古国府遺跡群第 18 次調査 (報告) | 23 |
| ⑤上野遺跡群第 16 次調査 (報告) | 28 |
| ⑥下郡遺跡群第 148 次調査 (報告) | 30 |
| ⑦下郡遺跡群第 149 次調査 (報告) | 33 |
| ⑧高松東遺跡第 1 次調査 (報告) | 35 |
| ⑨今市市場跡・石畳跡第 1 次調査 (報告) | 37 |

第 4 章 平成 24 年度教育普及活動の成果概要

- | | |
|---------------------------|----|
| ①大友氏遺跡フェスタ 2012 | 38 |
| ②大分市文化財たより 2012 年度号の発行 | 38 |
| ③大友氏遺跡体験学習館 平成 24 年度の活動状況 | 38 |
| ④記者発表 府内城・城下町跡第 22 次調査 | 39 |

第 5 章 受贈図書目録

第1章 大分市教育委員会教育部文化財課概要

1. 沿革

- 昭和51年4月1日 大分市教育委員会社会教育課内に文化財係を設置
 昭和59年6月28日 大分市教育委員会社会教育課文化財係を大分市教育委員会社会教育課文化財室に改組
 平成元年4月1日 大分市教育委員会文化振興課文化財室に改組
 平成10年4月1日 大分市教育委員会生涯学習課文化財室に改組
 平成12年4月1日 大分市教育委員会文化財課に改組
 平成13年4月1日 大分市教育委員会教育総務部文化財課に改組
 平成21年4月1日 大分市教育委員会教育部文化財課に改組

2. 組織

- 課長 塔鼻光司 (平成25年4月～)
 参事 神田 洋 (平成25年4月～)
 歴史資料館長 武富雅宣 (平成25年4月～)
 歴史資料館副館長

- 久多羅岐明 (～平成25年3月)
 特別顧問 玉永光洋
 参事補 坪根伸也

管理庶務担当班

- 参事補 (班長) 利根貴美代 (平成25年4月～)
 主査 神崎小由美 (～平成25年3月)
 主任 竹中智美
 主事 石川ゆかり
 事務員 浅川祥太 (平成25年4月～)

文化財保護担当班

- 参事補 (班長) 高畠 豊
 参事補 栗田博之
 参事補 河野史郎
 指導主事 植木和美
 主任 永松正大
 稲葉孝博 (平成25年4月～)
 主事 朝川貴俊
 嘱託 小野知恵

史跡整備担当班

- 参事補 (班長) 斉藤慎悟
 主査 安達高治 (平成25年4月～)
 渡辺政雄 (～平成25年3月)
 藤澤信之

指導主事

- 主任 五十川雄也
 川口澄雄 (～平成25年10月)
 山上洋二郎 (～平成25年3月)
 嘱託 盛田靖也 (平成25年4月～)
 原口奈々 (平成25年4月～)
 廣瀬育子 (～平成25年3月)
 臨時 板井萌浩 (平成25年11月～)

学芸普及担当班

- 顧問 讃岐和夫
 指導主事 (班長) 小野富広
 主査 秋吉えつ子 吉野晃次
 主任 金丸英治 (～平成25年3月)
 専門員 中西武尚
 指導主事 志賀良史 (平成25年4月～)
 後藤真治 (～平成25年3月)
 事務員 板井貴裕 (平成25年4月～)
 嘱託 古瀬美鈴 細井雅希
 其田満男 (～平成25年3月)
 阿部和広 (～平成25年4月)
 神志那潔 福永素久
 合澤昭子 (平成25年5月～)
 岩尾良美 (平成25年4月～)
 藤坂彰子 一瀬勇士 (平成25年11月～)
 小野研一 阿南希依 小野千恵美
 堀真由美 (平成25年4月～)
 姫野都貴 (～平成25年10月)
 甲斐 勉 (～平成25年10月)
 御手洗純男 (平成25年11月～)
 渡邊まなみ (平成25年11月～)

臨時

埋蔵文化財担当班

- 参事補 (班長) 池邊千太郎
 専門員 塩地潤一
 主査 佐藤道文
 主任 長 直信
 主事 松浦憲治
 嘱託 松木晴美 倉増美智代 佐藤麻理子
 永井美香 小野綾夏 敷島加代子

3. 大分市教育委員会事務局組織規則（抜粋）

文化財課

- (1) 文化財の調査、保存及び整備に関すること。
- (2) 文化財保護思想の普及啓発に関すること。
- (3) 文化財保護審議会に関すること。
- (4) 歴史資料館、海部古墳資料館、毛利空桑記念館、池見家住宅その他文化財施設の管理に関すること。

1. 大分市文化財保護審議会

大分市文化財保護審議会委員（平成25年4月1日現在）

氏名	勤務先	担当
北野 隆	熊本大学名誉教授（会長）	建築
豊田 寛三	別府大学学長（副会長）	近世
下村 智	別府大学教授	考古埋蔵
西別府 元日	広島大学教授	古代
鹿毛 敏夫	新居浜工業高等専門学校准教授	中世
宗像 健一	大分市美術館顧問	美術
船津 勇一	大分県教育センター指導主事	植物
渡辺 文雄	前別府大学教授	工芸
段上 達雄	別府大学教授	民俗
渡邊 ひろ美	大分県立大分舞鶴高等学校教諭	動物

大分市文化財保護審議会条例（平成11年12月15日条例第42号）

（設置） 第1条 文化財保護法（昭和25年法律第214号）第190条第1項の規程に基づき、大分市教育委員会（以下「教育委員会」という。）に大分市文化財保護審議会（以下「審議会」という）を置く。（平17条例13・一部改正）

（組織） 第2条 審議会は、委員10人以内をもって組織し、学識経験者のうちから教育委員会が委嘱する。

（任期） 第3条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の在任期間とする。

（会長及び副会長） 第4条 審議会に会長及び副会長1人を置き、委員の互選により選出する。

2 会長は、審議会を代表し、会務を総括する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

（会議） 第5条 審議会の会議（以下「会議」という。）は会長が召集し、会長がその議長となる。

2 会議は、委員の過半数が出席しなければ、これを開くことができない。

3 会議の議事は、出席議員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

4 会長は、必要があると認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求め、説明、又は意見を聴くことができる。

（部会） 第6条 審議会に、教育委員会規則の定めるところにより、部会を置くことができる。

（庶務） 第7条 審議会の庶務は、教育委員会事務局において処理する。

（委任） 第8条 この条例に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、会長が定める。

附則

（施行期日）

1 この条例は、平成12年4月1日から施行する。

（大分市文化財調査委員会条例の廃止）

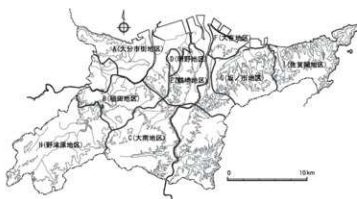
2 大分市文化財調査委員会条例（昭和51年大分市条例第4号）は廃止する。

附則（平成17年条例第13号）

この条例は、平成17年4月1日から施行する。

第2章 平成24年度発掘調査概要

平成24年度に大分市教育委員会が実施した発掘調査（本調査）は18件、合計調査面積は10,276.7㎡である。このうち、大分市の公共事業によるものが4件1441.7㎡、国庫補助による市内遺跡確認調査が4件2072.1㎡、民間開発に伴う事業が10件で6762.9㎡であった。市内の地域区分でみると、ほぼ大多数が大分市街地区（地域A）であるが、道路側溝整備に伴って、合併後初めて野津原地区（地域H）での文化財調査を実施した。



第1図 大分市地域区分図

一方、開発事業に伴う試掘・確認調査・立会調査は98件であった。試掘・確認調査が33件、立会調査が65件である。立会調査については、大半が個人住宅の浄化槽設置に伴う立会調査である。地域別件数では、大小含めて開発が集中している大分地区（地域A）が44件45%、個人住宅の浄化槽設置工事を含む中小規模の民間開発が多い鶴崎地区（地域E）が40件41%と、両地域で9割近くを占めている。その他は、穂田地区（地域B）で7件、坂ノ市地区（地域G）で4件、大南地区（地域C）で3件となっている。

番号	遺跡名	所在地	発掘者	調査理由	面積	調査期間	調査内容	報告予定
1	下郡遺跡群第146次	大分市下郡1丁目	長 松浦	個人住宅	38.49	20120515～ 20120518	12世紀～13世紀と考えられる溝	本書所収
2	高松東遺跡第1次	大分市高松東2丁目	長 松浦	共同住宅建築	119.127	20120521～ 20120525	古代以降の掘立柱建物跡または溝利、中世後半期の溝など	本書所収
3	城隈・東遺跡第145次	大分市大字城隈	五十川	市内重要遺跡確認調査	172	20120611～ 20120731	弥生時代後期の掘立柱建物跡や古代～中世の柱穴	平成26年度（概略）
4	中世大友府内町跡第97次	大分市大字大分	長	病院建設	5794.6	20120628～ 20130329	戦国時代の寺小跡の調査 掘立柱建物跡10数棟	平成26年度以降
5	府内城・城下町跡第22次	大分市東広町2丁目	松浦	都市計画道路築造事業	364.7	20120629～ 20121128	江戸時代の寺跡に隣接する礎石建物跡及び礎石遺構	平成24年度以降
6	下郡遺跡群第145次	大分市下郡南1丁目	長 松浦	個人住宅	10.92	20120710	弥生時代終末期頃の集落を囲む環濠（溝状遺構）、4世紀以降のピット基など	本書所収
7	吉田町遺跡群第17次	大分市羽星	松浦 堀地 長	共同住宅建築	189	20120717～ 20120720	古代と考えられる掘立柱建物跡の一部	本書所収
8	上野遺跡群第16次	大分市上野丘1丁目	長 松浦	共同住宅建築	70	20120724～ 20120731	古代と考えられる溝や、掘立柱建物跡の柱穴など	本書所収
9	中世大友府内町跡第100次	大分市藤町1丁目	堀地	個人住宅	39	20120725～ 20120813	16世紀前半～末頃の礎石建物跡や土坑など	本書所収
10	穂田遺跡第140次	大分市穂田	堀地	共同住宅建築	15	20120820～ 20120821	弥生時代中期の土坑、時期不明の柱穴など	平成26年度以降
11	大道遺跡群第42次	大分市大道1丁目	堀地 松浦	駅南地区開発事業	600	20120829～ 20120831	古墳時代前期の井戸跡・祭祀遺構とされる土坑	平成25年度
12	今市市場跡・石置跡第1次	大分市大字今市	堀地	道路側溝整備	65	20120904～ 20120916	石置と判断される石列	本書所収
13	大友氏館跡第28次	大分市藤町3丁目	佐藤（道） 五十川	史跡整備に伴う確認調査	1860.8	20120921～ 20130322	16世紀後半頃の池を伴う掘立柱建物跡及び礎石建物跡	平成26年度（概略）
14	大分元町石仏第2次	大分市元町	河野	大分元町石仏保存整備事業	0.5	20121015～ 20121016	石仏前直前土間部分における「たき」の石について確認調査	平成26年度以降
15	吉田町遺跡群第18次	大分市大字羽星	長 松浦 高島	個人住宅	70	20121018～ 20121018	古墳時代の掘立柱建物跡2棟と区画溝の一部	本書所収
16	府内城・城下町跡第23次	大分市東広町2丁目	松浦	都市計画道路築造事業	192	20121127～ 20130110	古墳時代に埋れた江戸時代の石垣	平成25年度
17	羽田遺跡群第10次	大分市羽田	堀地 松浦	共同住宅建築	266.6	20130307～ 20130329	6世紀代後半の掘立柱建物跡や弥生時代のピット	平成25年度
18	羽田遺跡群第11次	大分市大字羽田字ノ本	堀地 松浦	共同住宅建築	189.2	20130307～ 20130329	弥生時代後期及び6世紀後半の掘立柱建物跡	平成25年度

※ 掘りトーン：公共事業調査／掘りトーン：国庫補助調査

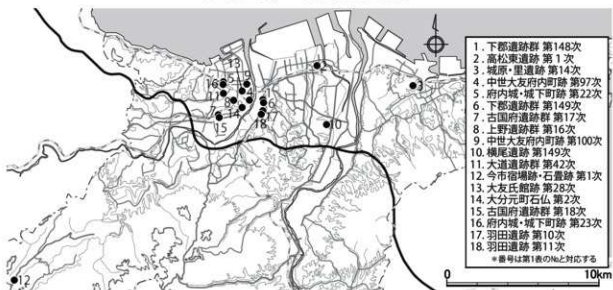
第1表 平成24年度発掘調査一覧表

番号	調査区域	道路名	調査日	所在地	地域	調査箇所	事業種類	調査面積	調査結果	調査担当者	備考
1	確認	中世大友府内町跡	平成24年4月4日	大字大友7490-115か	A	病院建設	民間	123.00	道路なし	長 松浦 小野(知)	協議中
2	確認	古国府遺跡群	平成24年4月5日	大字古国府字五反田108番地	A	宅地造成	民間	27.00	道路あり	塩地 小野(知)	工事着工
3	立合	玉沢地区全量跡	平成24年4月4日	大字上宇字跡40-2	B	店舗	民間	7.00	道路なし	塩地 小野(知)	工事着工
4	確認	葛木遺跡	平成24年4月12日、5月17日、6月18日	大字葛木字西上272番地3(注か)	E	宅地造成	民間	38.30	道路あり	長 松浦 小野(知)	工事着工
5	確認	米竹遺跡	平成24年4月13日	大字小池田282-1	E	集合住宅	民間	41.40	道路あり	長 松浦 小野(知)	協議中
6	立合	横尾遺跡	平成24年4月12日	大字横尾324番	E	個人住宅	民間	8.00	道路あり	塩地 小野(知)	工事着工
7	立合	横尾遺跡	平成24年4月13日	大字横尾字太田原1305番	E	個人住宅	民間	2.40	道路あり	塩地 小野(知)	工事着工
8	確認	羽田遺跡	平成24年4月19日	大字羽田955番	A	宅地造成、雑居住宅	民間	5.40	道路あり	長 松浦 小野(知)	工事着工
9	確認	下郡遺跡群	平成24年4月17日	下郡中央1丁目180番	A	個人住宅	民間	19.70	道路あり	松浦 長 小野	協議中
10	確認	高松谷遺跡	平成24年5月8日	高松2丁目4番	E	店舗兼集合住宅	民間	22.87	道路あり	松浦 小野(知)	協議中
11	確認	葛木遺跡	平成24年5月9日	大字葛木字西上205番19	E	個人住宅	民間	21.30	道路あり	長 松浦 小野(知)	工事着工
12	立合	上野大友郡跡	平成24年5月8日	上野丘西	A	-	-	-	道路あり	塩地	工事着工
13	立合	上野大友郡跡	平成24年5月24日	上野丘1丁目416番1	A	集合住宅	民間	10.75	道路あり	長 松浦 小野(知)	協議中
14	立合	向津遺跡	平成24年5月25日	大字松浦字西原637番地1	E	個人住宅	民間	3.26	道路あり	松浦	工事着工
15	立合	津中遺跡	平成24年6月12日	大字津中下町158-31(注か)	A	個人住宅	民間	2.80	道路あり	塩地	工事着工
16	立合	横尾遺跡	平成24年6月7日	大字横尾字多武殿258-2(注か)	E	個人住宅	民間	4.42	道路あり	松浦 小野(知)	工事着工
17	立合	羽田遺跡	平成24年6月8日	大字平高字横小畑27番(注か)	A	個人住宅	民間	4.50	道路あり	松浦 小野(知)	工事着工
18	立合	葛木遺跡	平成24年6月14日	大字葛木字西上205-13	E	個人住宅	民間	3.15	道路あり	松浦 小野(知)	工事着工
19	立合	葛木遺跡	平成24年6月12日	大字葛木字西上205-18	E	個人住宅	民間	4.20	道路あり	松浦 小野(知)	工事着工
20	確認	古国府遺跡群	平成24年6月9日	大字羽田189-2	A	集合住宅	民間	43.03	道路あり	長 松浦	協議中
21	立合	玉沢地区全量跡	平成24年6月15日	上原1丁目100番	B	個人住宅	民間	68.60	道路あり	松浦 小野(知)	工事着工
22	立合	古国府遺跡群	平成24年6月18日	大字羽田1丁目15番103番地	A	個人住宅	民間	3.12	道路なし	松浦 小野(知)	工事着工
23	立合	葛木遺跡	平成24年6月8日	大字葛木字西上205-14	E	個人住宅	民間	3.78	道路あり	塩地	工事着工
24	確認	地蔵堂遺跡	平成24年6月18日	大字千歳字山1829番60	E	個人住宅	民間	18.20	道路あり	塩地	工事着工
25	立合	横尾遺跡	平成24年6月20日	大字横尾字尾田2914番(注か)	E	個人住宅	民間	6.48	道路あり	松浦 小野(知)	工事着工
26	立合	久原2遺跡	平成24年6月29日	久原北178番	G	集合住宅	民間	7.00	道路あり	塩地	工事着工
27	立合	鶴賀遺跡	平成24年6月26日	上戸次町7-4313	C	その他建物(雑居)	公共	0.20	道路あり	塩地 小野(知)	協議中
28	立合	横尾遺跡	平成24年6月28日	大字横尾字吉原路3256番	E	個人住宅	民間	2.52	道路あり	松浦 小野(知)	工事着工
29	立合	古国府遺跡群	平成24年7月2日	大字二又3番	A	個人住宅	民間	-	道路なし	松浦 小野(知)	工事着工
30	立合	玉沢地区全量跡	平成24年7月2日	大字上宇字大塚下425-1(注か)	B	個人住宅	民間	4.65	道路あり	松浦 小野(知)	工事着工
31	確認	中世大友府内町跡	平成24年9月29日、7月2日	鶴賀3丁目3046番1	A	その他建物(事務所)	民間	48.75	道路なし	佐藤 松浦 小野(知)	工事着工
32	確認	下郡遺跡群	平成24年7月10日	下郡南1丁目170番	A	個人住宅	民間	10.92	道路あり	長 松浦 小野(知)	協議中
33	立合	鶴賀遺跡	平成24年7月30日、6月7日、12月25日	大字森町字西上通641番1	E	集合住宅	民間	10.50	道路あり	長 松浦 小野(知)	工事着工
34	確認	中世大友府内町跡	平成24年8月6日	鶴賀3丁目3223番15	A	個人住宅	民間	39.00	道路あり	塩地	本調査
35	立合	横尾遺跡	平成24年7月10日	鶴賀	E	個人住宅	民間	14.96	道路あり	塩地	工事着工
36	立合	横尾遺跡	平成24年7月17日	大字横尾字大友12339-31(注か)	E	個人住宅	民間	4.65	道路あり	塩地	工事着工
37	立合	羽田遺跡	平成24年7月26日	大字羽田字西上7830番地0-1(注か)	A	個人住宅	民間	3.45	道路あり	塩地	工事着工
38	立合	横尾遺跡	平成24年8月6日	大字横尾字成田111番地(注か)	E	個人住宅	民間	3.30	道路あり	小野(知)	工事着工
39	確認	古国府遺跡群	平成24年8月17日	大字古国府501-A	A	-	31.50	道路あり	塩地 小野(知)	協議中	
40	立合	横尾遺跡	平成24年8月27日	大字横尾字成田1197番9	E	個人住宅	民間	3.84	道路あり	松浦 小野(知)	工事着工
41	立合	横尾遺跡	平成24年8月29日	大字横尾字成田1197番1	E	個人住宅	民間	2.50	道路あり	松浦 小野(知)	工事着工
42	確認	下郡遺跡群	平成24年8月30日	下郡南3丁目169番、170番	A	賃貸用戸建住宅	民間	13.15	道路あり	塩地 小野(知)	協議中
43	立合	羽田遺跡	平成24年8月27日	大字羽田字西上7830番	A	個人住宅	民間	1.70	道路あり	塩地 松浦 小野(知)	工事着工
44	立合	葛木遺跡	平成24年8月27日	大字葛木字西上234-2、234-4	E	個人住宅	民間	3.06	道路あり	塩地	工事着工
45	立合	野田遺跡	平成24年9月7日	大字野田字西原692番5	B	個人住宅	民間	2.42	道路あり	佐藤	工事着工
46	立合	市街地・石巻跡	平成24年9月4日～10日	市街	B	道路	公共	92.40	道路あり	塩地	現状保存
47	確認	上野遺跡群	平成24年9月6日	上野丘西320番(注か)	A	個人住宅	民間	13.67	道路あり	佐藤 小野	協議中
48	確認	中世大友府内町跡	平成24年9月18日	鶴賀3丁目4351番2	A	賃貸用戸建住宅	民間	34.00	道路あり	塩地 松浦 小野(知)	協議中
49	立合	横尾遺跡	平成24年9月18日	大字横尾字成田1197番6	E	個人住宅	民間	2.00	道路あり	佐藤(通)	工事着工
50	確認	津中遺跡	平成24年9月25日	大字津中下町409番1(注か)	A	集合住宅	民間	18.50	道路あり	塩地 松浦 小野(知)	工事着工
51	試掘	横尾遺跡	平成24年9月26日	大字横尾字一宮54番	E	個人住宅	民間	41.60	道路あり	塩地	協議中
52	立合	横尾遺跡	平成24年10月18日	大字横尾字成田1197番7	E	個人住宅	民間	4.00	道路あり	小野(知)	工事着工
53	確認	中世大友府内町跡	平成24年10月18日	長浜町2丁目	A	道路	公共	30.03	道路あり	塩地	本調査
54	立合	米竹遺跡	平成24年11月2日	大字小池田字仲原40番13	E	個人住宅	民間	2.31	道路あり	塩地	工事着工
55	立合	古国府遺跡群	平成24年11月6日	大字古国府字相田640-9	A	個人住宅	民間	3.40	道路あり	松浦 小野(知)	工事着工
56	立合	中世大友府内町跡	平成24年11月7日、2日	鶴賀3丁目4351-8(注か)	A	賃貸用個人住宅	民間	30.00	道路あり	塩地 松浦 小野(知)	工事着工
57	立合	横尾遺跡	平成24年11月9日	大字横尾成田1208番3	E	個人住宅	民間	3.00	その他	塩地	工事着工
58	立合	古国府遺跡群	平成24年11月9日	大字古国府501-A	A	その他建物(事務所)	民間	6.40	道路あり	塩地	協議中
59	確認	中世大友府内町跡	平成24年11月22日	六所北町4467-1	A	個人住宅	民間	32.50	道路あり	塩地	協議中
60	確認	中世大友府内町跡	平成24年11月21日	鶴賀3丁目4341番	A	個人住宅	民間	24.25	道路あり	塩地	協議中
61	確認	小池田貝塚	平成24年11月27日	大字小池田字中津1200番1	E	宅地造成	民間	5.00	道路あり	塩地	工事着工
62	確認	米竹遺跡	平成24年11月26日	大字千歳字米竹1750番1	E	個人住宅	民間	18.06	道路あり	松浦 小野(知)	協議中
63	立合	古国府遺跡群	平成24年11月20日	大字古国府字成田15-1(注か)	A	集合住宅	民間	9.00	道路あり	塩地	工事着工
64	立合	葛木遺跡	平成24年11月22日	大字葛木字西上275-11	E	個人住宅	民間	2.80	道路あり	松浦	工事着工
65	立合	葛木遺跡	平成24年11月29日	大字葛木字西上275-9、275-9	E	個人住宅	民間	3.45	道路あり	松浦	工事着工
66	立合	下郡遺跡群	平成24年11月26日	大字下郡字西上7230番	E	個人住宅	民間	3.20	道路あり	塩地	工事着工
67	立合	米竹遺跡	平成24年12月17、18日	大字千歳字平井1802-5(注か)	E	雑居住宅	民間	12.51	道路あり	松浦 小野(知)	協議中
68	確認	古国府遺跡群	平成24年12月6日	大字古国府字西原789番1	A	個人住宅	民間	10.00	道路あり	塩地	工事着工
69	確認	羽田遺跡	平成24年12月5日	大字羽田937-1	A	集合住宅	民間	7.00	道路あり	塩地	協議中
70	立合	市内中心部・下郡跡	平成24年11月13日	長浜町1丁目1397番2	A	個人住宅兼店舗	民間	2.88	道路あり	塩地	工事着工
71	立合	中世大友府内町跡	平成24年12月12日	六所北町	A	水道	民間	3.00	道路あり	塩地	工事着工
72	立合	佐柳遺跡	平成24年12月25日	大字平高字新田1300番1(注か)	C	ケアホーム	民間	13.90	道路あり	塩地	工事着工
73	立合	横尾遺跡	平成24年12月18日	大字横尾字西原2673番	E	個人住宅	民間	1.50	道路あり	塩地	工事着工
74	立合	米竹遺跡	平成24年12月26日	大字小池田字西上7273番4	E	個人住宅	民間	3.20	道路あり	塩地	工事着工
75	立合	羽田遺跡	平成24年12月25日	大字羽田字西上730番4	A	個人住宅	民間	2.40	道路あり	五十川	工事着工
76	立合	中世大友府内町跡	平成24年12月21日	長浜町3丁目	A	道路	公共	-	道路あり	塩地	協議中
77	立合	玉沢地区全量跡	平成25年1月8日	大字宇字ツツ田561番4	B	個人住宅	民間	5.10	道路あり	松浦	工事着工
78	立合	葛木遺跡	平成25年1月11日	大字葛木2005番17	E	個人住宅	民間	3.00	道路あり	小野(知)	工事着工

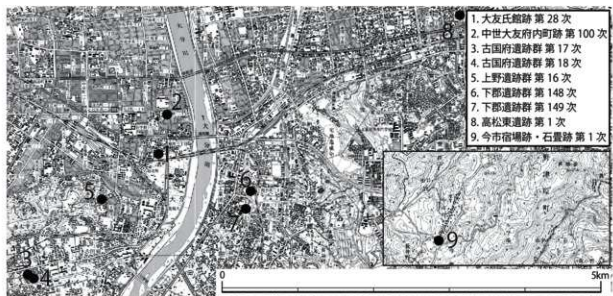
第2表 平成24年度試掘立会一覧表

番号	調査 種別	遺跡名	調査日	所在地	地域	調査理由	事業 種別	調査 種別	調査結果	調査担当者	備考
79	立倉	丹生川左/市金堂跡	平成25年1月22日	坂/市中央2丁目25番1	D	個人住宅	民間	2.80	遺跡あり	小野(知)	工事着工
80	立倉	葛木遺跡	平成25年1月22日	大字葛木字西上275番6	E	個人住宅	民間	3.10	遺跡あり	小野(知)	工事着工
81	確認	羽田遺跡	平成25年1月22日	大字羽田字兼ノ木588番1	A	集合住宅	民間	38.70	遺跡あり	塩地	協議中
82	確認	米竹遺跡	平成25年1月24日	大字千歳1928番11番か	E	集合住宅	民間	25.50	遺跡あり	小野(知)	工事着工
83	立倉	葛木遺跡	平成25年1月29日	大字葛木字志平ノ上775番4	E	個人住宅	民間	2.86	その他	小野(知)	工事着工
84	立倉	下郡遺跡群	平成25年1月30日	下郡中央2丁目375番12番か	A	店舗	民間	9.45	遺跡なし	小野(知)	工事着工
85	立倉	羽田遺跡	平成25年2月1日	大字羽田897-4、6	A	集合住宅	民間	6.60	遺跡あり	小野(知)	工事着工
86	立倉	門通寺遺跡	平成25年2月6日	大字廣内字九六位443番	C	個人住宅	民間	4.65	遺跡なし	塩地	工事着工
87	立倉	鶴崎御茶屋跡	平成25年2月6日	南鶴崎3丁目3番1号	E	小学校校舎跡	公共	4.64	遺跡あり	塩地	工事着工
88	立倉	上野遺跡群	平成25年2月13日	上野丘西2-19	A	その他建物(寺院玉庫)	民間	2.40	遺跡なし	松浦	工事着工
89	立倉	久保遺跡	平成25年2月12日	久保中央2丁目132番3、4	E	個人住宅	民間	8.44	遺跡なし	小野(知)	工事着工
90	立倉	葛木遺跡	平成25年2月6日	大字葛木字西上275番5	E	個人住宅	民間	3.45	遺跡あり	小野(知)	工事着工
91	立倉	野田遺跡	平成25年2月25日	大字野田字平ノ渡満町番11番か	B	その他開発(基地跡)	民間	13.50	遺跡あり	小野(知)	工事着工
92	確認	上野大友遺跡	平成25年2月26日	上野丘西371番31番か	A	個人住宅	民間	19.50	遺跡あり	塩地	協議中
93	確認	中世大友府内町跡	平成25年3月6日	鶴崎3丁目339番3	A	集合住宅	民間	28.50	遺跡あり	塩地 小野(知)	協議中
94	立倉	中世大友府内町跡	平成25年3月6日	長良町3丁目3487番	A	宅地造成	民間	-	その他	麻島	
95	確認	古国府遺跡群	平成25年3月25日	大字平野字平野町27番3、11番	A	個人住宅	民間	9.00	遺跡なし	松浦	工事着工
96	立倉	上野遺跡群	平成24年11月19日	大字上野字平野町161番	E	個人住宅	民間	-	その他	小野(知)	工事着工
97	確認	中世大友府内町跡	平成25年3月26日	金池町4丁目1494番12番か	A	個人住宅	民間	17.00	遺跡あり	塩地 小野(知)	協議中
98	立倉	葛木遺跡	平成25年3月25日	大字葛木字西上275番4	E	個人住宅	民間	-	その他	塩地	工事着工

第3表 平成24年度試掘立倉一覽表



第2図 平成24年度発掘調査位置図



第3図 報告対象遺跡位置図 (1/50000)

第3章 主要な埋蔵文化財発掘調査概要及び調査報告

1 大友氏館跡第28次調査概要

調査面積 1860.6 m²

調査期間 12.09.21 ~ 13.03.22

地 域 A

調査担当 佐藤道文・五十川雄也

1. 調査の経緯・立地と環境（第4図）

調査地点は大友氏館跡の南東張り出し部分にあたり、平成10・11年度に行われた大友氏館跡第1・3次調査において3段階の時期変遷が想定される池跡を伴う庭園遺構が検出されている。また、第1次調査区と一部重複して行った館第12次調査では大友氏館跡廃絶後の遺構（井戸跡）や14～15世紀前半と位置づけられる建物跡群、庭園遺構に係属するとされる植栽痕とも考えられる遺構が見つかった。館第12次調査区の東側に隣接する館第22次調査では16世紀後半に比定される硬化面が認められ、外郭施設の一部と推測されている。今回の第28次調査は、これら周辺調査区で確認されている庭園遺構の南辺部分の範囲かつ構造の把握及び大友氏館跡の東外郭・南外郭施設の確認を主な目的とし、平成28年度以降に実施される予定の大友氏館跡整備事業の着手にとって必要な情報を得るために調査を行った。



第4図 調査位置図（1/5000）

2. 調査の概要（第5・6・7図）

今回の調査では、景石・護岸石を含む庭園遺構の池跡（28SG001）、池の導配水の施設と考えられる南北溝跡（28SD010）、東側外郭線上において検出された版築状積み土遺構、14～15世紀代の掘立柱建物跡群及び溝跡、16世紀後半～未頃の遺物を内包する廃棄遺構等が確認された。また、地震の痕跡と推測される噴砂跡も発見されている。

28SG001は、本調査区内では東西約28m、南北約10mの範囲において確認された。その構造・内容について略述する。池底には、主に基盤層（地山）が砂層である部分には滞水を目的として粘土を貼るといった造作が行われていた。28SG001西側において、五輪塔地輪部を使用した石列遺構とそれに連続する石積み遺構が検出された。石積み遺構は28SG001の西辺に沿っていることから護岸石と考えられるが、石列遺構については用途不明である。土層中には、細かな砂がラミナ状に堆積している箇所が複数あることから、流水（水の動き）があったと推測される。但し、館第1次調査で認められた腐食土層は本調査区内には分布しない。

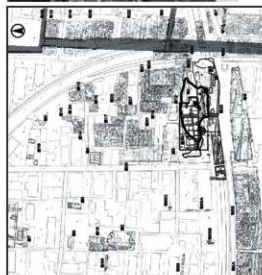
外郭に関する遺構は、推定東側外郭線上で攪乱坑により大半が掘削されるものの砂・砂利・粘土が薄く互層になった積み土遺構を確認した。土層構造・検出位置等から判断して築地崩跡の可能性が考えられる。調査区南側では東西方向の溝跡が複数検出され、館内外部に関する区画施設が存在していたことが想定される。28SD005は、大友氏館南辺としても顧慮はないが、出土遺物は全て15世紀代の範囲に留まることから一考を要する。

3. まとめ

今回の調査では池跡を中心に調査を進めたが、広大な遺構であるため各事象を理解するには困難を極め、多くの課題も顕在化した。大友氏館の庭園遺構の全容把握については、発掘調査・遺跡庭園学・環境考古学等からの専門的アプローチが必要と思われる。（佐藤 道文）



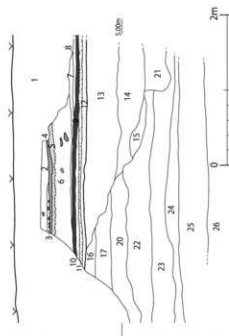
庭園遺構遠景（東より）



第5図 調査状況位置図 (1/4000)



石列・石積み遺構 (北東より)



第2～12 層は積み土層構造を有した土層であり、積立遺構部を構成するもので全て水年になるように敷き出し、ひときりめられており、非常に硬質な土層部である。
基本的には、積層土→小石層→砂層土という順に積み土が行われたと考えられる。

- 4 砂層土 小石層 (厚20cm 暫定的な厚さで敷き詰められる)
- 6 砂層土 小石層 (厚20cm 暫定的な厚さで敷き詰められる)
- 7 砂層土 小石層 (厚20cm 暫定的な厚さで敷き詰められる)
- 8 砂層土 小石層 (厚20cm 暫定的な厚さで敷き詰められる)
- 9 砂層土 小石層 (厚20cm 暫定的な厚さで敷き詰められる)
- 12 砂層土 小石層 (厚20cm 暫定的な厚さで敷き詰められる)
- 15 砂層土 小石層 (厚20cm 暫定的な厚さで敷き詰められる)

第6図 積み土層構造土層実測図 (1/500)



第7図 遺構位置図 (1/600)

※座標は日本測地系による

2 中世大友府内町跡第 100 次調査報告

調査面積 39 m

調査期間 12.07.25 ~ 12.08.13

地 域 A

調査担当 塩地潤一

1. 調査の経緯・立地と環境 (第 8・9 図)

調査区は「府内古図」に記された南小路町推定地にあたり、第 2 南北街路推定地の西側隣接地に位置する。調査区の西側には来迎寺が現存する。南小路町は、既往の研究において注目される成果があり、発掘調査によるその検証が期待されていた町の 1 つである^(註 1)。豊後府内 (以下、府内町と称す。) のメインストリートは町名と字図より復元された町屋の構造から、南北道路と一番北側の東西道路であると想定されている。東西道路に面した町の殆どに小路町という名称が付けられ、南北道路に面して各町屋の面が並ぶ状況が概ね認められるなか、南小路町は南北道路に面しているものの、「小路町」となっている。それは南小路町の北側に隣接する古川町が貿易港である沖の浜に繋がる町筋で、府内町の初期から存続した可能性が高い東西道路に面していることが要因とされ、字図の復元からも交差点まで町屋の面が東西道路に揃う可能性があり、この学説を裏付ける根拠となっている。

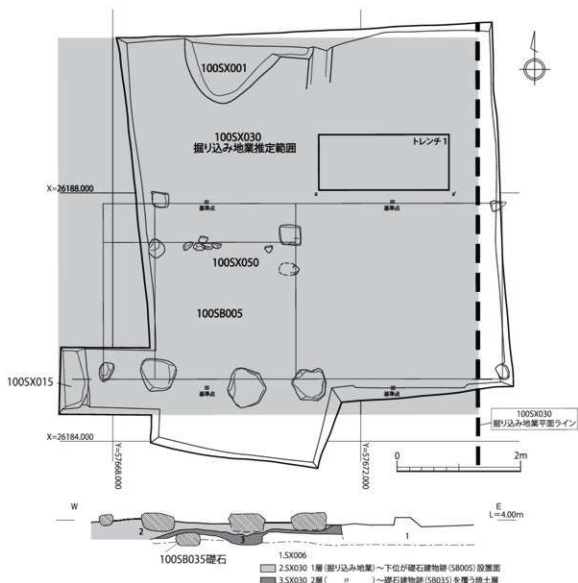
また、この第 2 南北街路は、府内町の中心を貫く南北道路であり、「府内古図」等の記載からこの道路に面して館の札門 (正門)、脇門の二つの門が存在していた可能性が示唆されている。既往の発掘調査からは、16 世紀中頃に幅約 11 m の南北道路が築造され、館と道路を介して対峙する桜町推定地では、16 世紀後半頃に商業地空間が展開して



第 8 図 調査位置図 (1/5000)



第 9 図 周辺の調査状況 (1/5000)



第10図 遺構全体図 第1面 (16世紀末頃) (1/60)

いたことが判明している。第2南北街路と東西道路（推定の名ヶ小路）の交差点に位置する中世大友府内町跡第12次調査地点では、道路状遺構に沿って礎石建物跡が検出され、豊富な陶磁器類をはじめとした出土遺物の様相から、大友氏と深く係わり商取引の度量衡を管理した豪商の屋敷地である可能性が指摘されている（註2）。

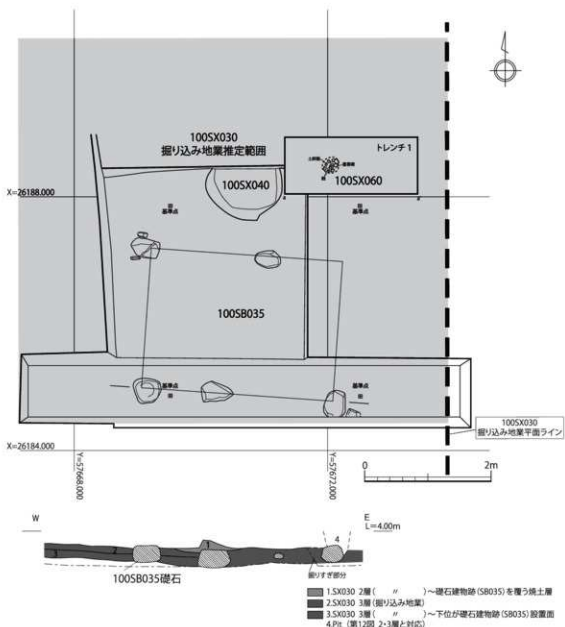
さらに、臼杵市立図書館にある江戸時代に記された「役屋先祖書」からは、古河（川）南町に戦国期の豪商・仲屋氏が屋敷を構えていたことが推測され（註3）、古川町の南側に位置する本調査地点との関連が注目される。

このような歴史的立地環境を踏まえ行った今回の調査は、専用住宅建設に伴い、宅地の地盤改良工事が行われることから、遺跡に影響を及ぼす範囲の遺跡の記録保存を目的に実施したものである。

2. 調査の概要

南小路町推定地における最初の本格的な発掘調査であり、調査の結果、16世紀後半～末にかけて地盤改良のために、同じ場所に2度の掘り込み地盤が施され、その上に礎石建物が建設されていたことが判明した。

検出された遺構群は、礎石建物跡（SB005・035）をはじめ、掘り込み地盤跡（SX030・020）、土坑（SX001・015）、銭貨埋納遺構（SX060）など16世紀前半から末頃の遺構であり、大きく4段階の変遷を確認した。礎石建物跡（SB005・035）は掘り込み地盤（SX030）内に建設されたもので、焼土層（SX002・SX030の2層）にそれぞれ覆われた状態で確認されている。焼土層出土遺物の帰属年代から礎石建物跡（SB005・035）は共に16世紀末頃の年代幅のなかでSB035が古くSB005の方がより新しい時期に廃絶したものと判断される。



第11図 遺構全体図 第2面 (16世紀後半～末頃) (1/60)

大型の掘り込み地業 (SX030) の下層からは同様な掘り込み地業 (SX020) が検出され、その下層からビットや銭貨埋納遺構 (SX060) などの遺構が重層的に分布している。以下に、各段階の遺構分布について報告する。

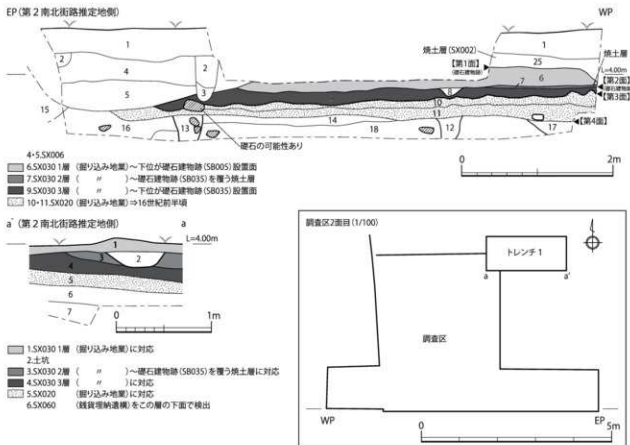
【第1面】16世紀末頃 (第10・12図)

焼土層 (SX002) の下層から検出された遺構群である。掘り込み地業 (SX030 第1層) 内に礎石建物跡 (SB005) と土坑 (SX001・015) が分布する。焼土層 (SX002) からは、中国青花碗F群や皿F群をはじめ、見込みに釉剥ぎが施される白磁皿や備前焼罎鉢 (乗岡編年近世1-b期) などが出土しており、これらの帰属年代から16世紀末頃には廃絶していた遺構群と位置付けられるものである。土坑 (SX001・015) からも中国青花碗F群や皿F群が出土しており、廃絶時期は礎石建物跡 (SB005) とほぼ同じである。特筆される出土遺物については後述する。

掘り込み地業 (SX030 第1層) は底面に礎石を置き、淡茶灰色土ブロックを多く含む淡茶色砂質土で埋めた造成跡である。遺存する掘削最大深度は0.2mで、その分布範囲については調査区外まで広がっており、断定できない。出土遺物は僅少であり、地業の厳密な時期比定は今回できていない。

礎石建物跡 (SB005)

建物主軸方向がほぼ座標北と判断されるもので、石列が伴う。調査区外まで展開しているため、その規模は断定で



第12図 調査区南壁・トレンチ土層実測図 (1/50・1/40)

きない。礎石は直径0.35～0.65mと大きさは不均一で石材も様々である。柱間も差異があり、柱筋も中軸線上に揃ってはいないものの、同一基軸上に展開する礎石及び石列である。

【第2面】16世紀後半～未頃（第11・12図）

焼土層（SX030第2層）の下層から検出された遺構群である。掘り込み地業（SX030第3層）内に礎石建物跡（SB035）と土坑（SX040）が分布する。焼土層（SX030第2層）からは、中国青花碗F群をはじめ、京都系土師器皿などが出土しており、これらの帰属年代から16世紀末頃には廃絶していた遺構群と位置付けられるものの、土坑（SX040）の出土遺物の帰属年代は16世紀後半頃と判断され、廃絶時期は礎石建物跡（SB035）より早いものと想定される。当該期の遺構から出土した特筆される遺物については後述する。

掘り込み地業（SX030第3層）は底面に礎石を置き、炭化物を僅かに含む程度で混入物があまり認められない淡茶灰色土で埋めた造成跡である。遺存する掘削最大深度は0.2mで、その分布範囲については調査区外まで広がっており、断定できない。出土遺物は僅少であり、地業の厳密な時期比定は今回できていない。

礎石建物跡（SB035）

建物の主軸方向はW-3° 46' 41" - Nである。調査区外まで展開している可能性が高く、その規模は断定できない。礎石は長さ0.40～0.50m、幅0.30～0.40mと平面長方形形状を呈し、大きさは上記のSB005より小振りである。柱間は不均等ながらも柱筋は中軸線上にほぼ揃っている。この主軸方向は第2南北街路と近似しており（註4）、その関連性が注目される。

【第3面】16世紀前半頃（第12図）

掘り込み地業（SX030）の下層から検出された掘り込み地業（SX020）が相当する。地業内の遺構の状況は確認できていないものの、調査区壁に礎石の可能性が高い円礫が確認されることから、建物が建設されていたものと想定される。掘り込み地業（SX020）からは、土師器や白色系土師器や朝鮮無釉陶器などが出土



礎石建物跡 (SB005) 全景 (北より)



掘り込み地業跡 (SX030・020) 土層観察状況 (北より)



礎石建物跡 (SB005) 検出状況 (東より)



焼土層 (SX030-2 層) を挟み検出された礎石 (東より)



焼土層 (SX030-2 層) を挟み検出された礎石 (東より)



焼土層 (SX030-2 層) 土層観察状況 (東より)



掘り込み地業跡 (SX030-1 層) 完掘状況 (東より)



礎石取り上げ風景

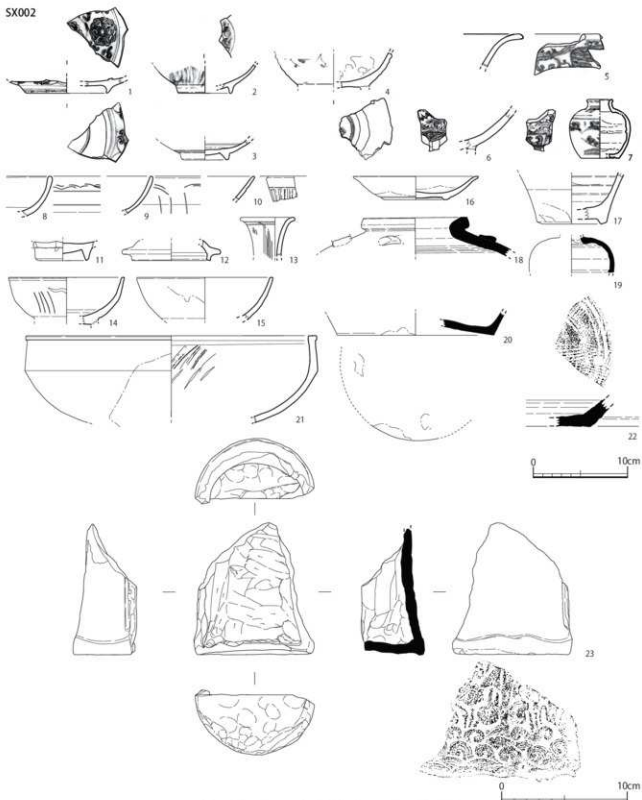


礎石建物跡 (SB035) 全景 (北より)



銭貨埋納遺構 (SX060) 遺物出土状況 (南より)

SX002



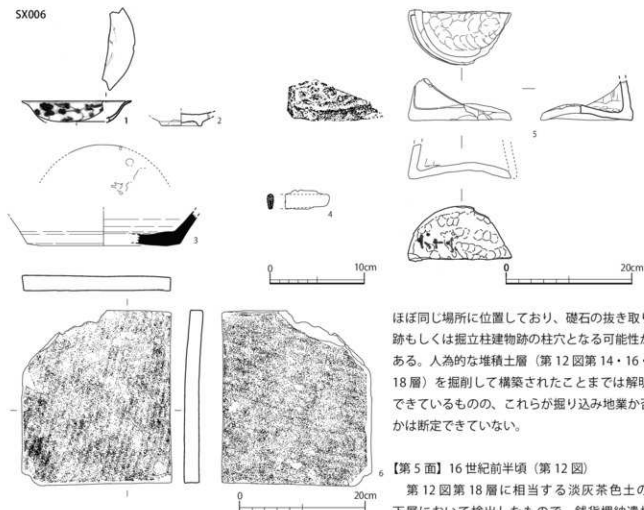
第13図 SX002出土遺物 (23・1/3 他1/4)

しており、これらの帰属年代から16世紀前半頃に造成されたものと判断される。遺存する掘削最大深度は0.3mで、淡茶灰色土ブロックを一定量含む灰茶色粗砂で埋められている。その分布範囲については調査区外まで広がっており、断定できない。

【第4面】16世紀前半頃（第12図）

掘り込み地業（SX020）の下層から検出された遺構群で、ピットが分布する。ピットは第2面までの礎石の場所と

SX006



第14図 SX006 出土遺物 (5・1/3 6・1/6 他・1/4)

「東」の文字が墨書された白色の玉砂利1個(第16図15～21)を埋納したもので、掘り方は確認できていない。土師器環の所属年代から16世前半頃に埋納されたものと判断される。

3. 出土遺物(第13～16図)

今回の調査では、コンテナ5箱の遺物が出土している。ここでは、主要遺構の年代を決定する遺物をはじめ特筆されるものについて報告する。

SX002 出土遺物(第13図)

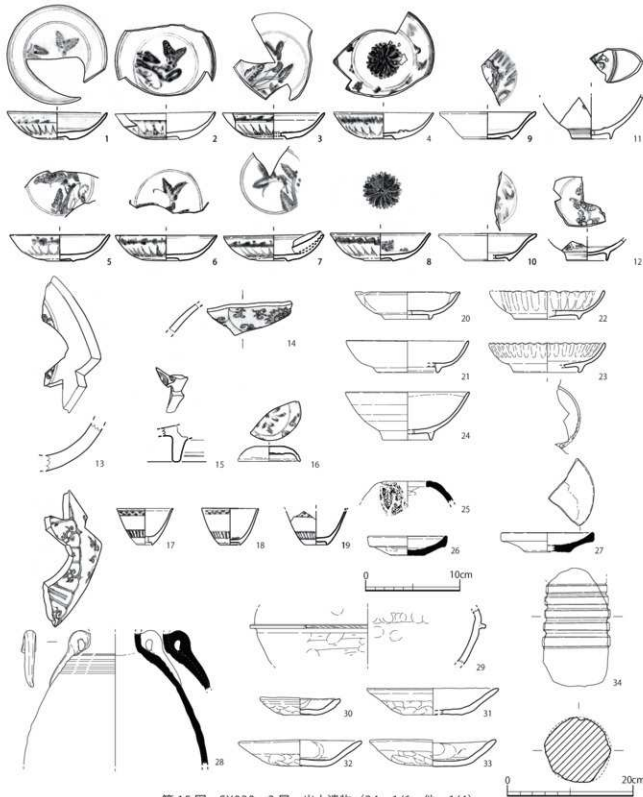
1・2は中国景德鎮窯系青花で、1は血F群、2は碗F群である。3は中国漳州窯系青花碗で、底部外面は露胎で内面見込みは釉剥ぎが施される。4～7は中国景德鎮窯系磁器で、4は青花碗で2次被熱により釉が発泡し外器面が変形する。5は青花鉢の口縁部、6は色絵鉢の底部である。2次被熱により釉が変色しているものの、割れ口の一部を研磨しているものと判断される。中世大友府内町跡第53次調査SX140出土の中国産褐釉陶器水注や大分県竹田市小路遺跡出土土法花壺などの稀少品に見られる加工である^(註5)。7は色絵小壺である。2次被熱により釉調は不鮮明となる。胴部中央の接合痕から、胴継ぎ成形されたことが分かる。図上はほぼ完形をなすが、直接的な接合関係は認められない。7の図は成形時の接合痕を基に破片を復元して実測したものである。

8・10～14は青磁である。10は産地不明の碗の口縁部で、外面にヘラ描き文様が施される。11は底部で体部屈曲部の断面に2次加工が認められるものである。12は蓋で口縁端部は露胎である。13は瓶の口縁部で、後述する第16図13のような瓶の体部がつくものと想定される。9・15は発色の悪い青磁もしくは白磁の碗である。16は白磁の皿で底部内外面は露胎である。内面は釉剥ぎが施される。17は中国産白磁の壺である。18～19は中国陶器で、18は黒釉四耳壺、19は緑釉単耳の小壺で、胴継ぎ成形される。2次被熱により釉が赤褐色に変色している。20は長

ほぼ同じ場所に位置しており、礎石の抜き取り跡もしくは掘立柱建物跡の柱穴となる可能性がある。人為的な堆積土層(第12図14・16・18層)を掘削して構築されたことまでは解明できているものの、これらが掘り込み地業か否かは断定できていない。

【第5面】16世紀前半頃(第12図)

第12図第18層に相当する淡灰茶色土の下層において検出したもので、銭貨埋納遺構(SX060)が分布する。土師器環に銭貨9枚と

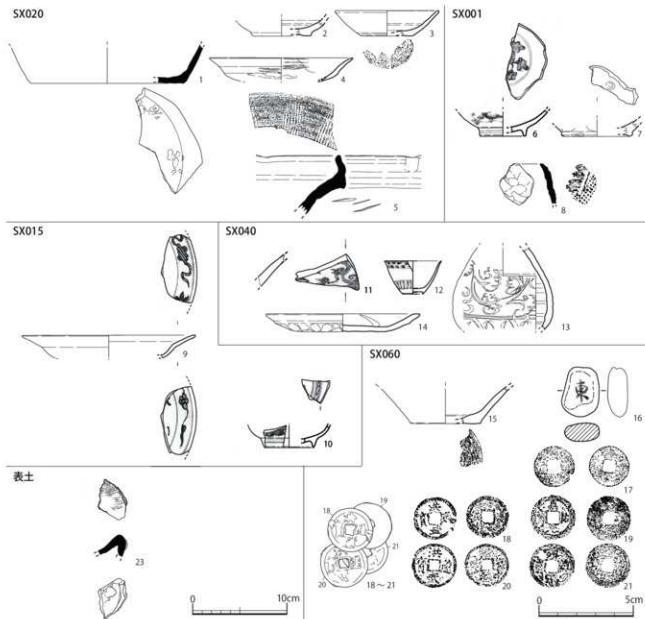


第15図 SX030 2層 出土遺物 (34・1/6 他・1/4)

胴瓶もしくは壺で、2次被熱により内面の釉が変色している。底部外面に目跡が認められる。21は土師質土器の火鉢である。遺存状態は極めて良く、外器面の光沢は鮮明である。内面には工具痕跡が明瞭に残る。体部外面には黒斑が広範囲に認められる。22は備前産襷鉢で内面に交差摺り目が施される。23は中国華南三彩陶器鶴形水注である。型押し成形で、2次被熱により釉は変色する。木村(2008)分類の1類に相当し、最古型式のものである(註6)。

SX006 出土遺物(第14図)

1は中国産景德鎮窯系青花皿のB2群である。2は中国産白磁皿で底部は大半が露胎である。3は中国産の褐釉陶



第16図 SX020・SX001・SX015・SX040・SX060・表土 出土遺物 (17～22・1/2 他・1/4)

器で、長胴瓶もしくは瓶である。底部内外面共に露胎で、内部に一部軸ダレが認められる。5は中国華南三彩陶器觚形水注である。型押し成形で、2次被熱により軸は赤褐色に変色する。底部外面には墨書「六十六」が焼成前に施される。

SX030 第2層出土遺物 (第15図)

1～19は中国産景德鎮窯系青花で、1～8は血のC群である。2次被熱により軸調は不鮮明となる。7は2次被熱により融着が認められる。9・10は白磁E2群の器形を呈する碁筭底の坏である。11・12は碗のF群である。13・14は鉢で、15は盤の底部破片である。17～19は小坏で、底部は碁筭底を呈す。20～24は白磁で、24の碗には貼り付け高台が認められる。25は中国華南三彩陶器觚形水注である。型押し成形で、2次被熱により軸は赤褐色に変色する。26・27は中国産黒釉陶器の皿である。27には内面に煤が多量に付着し、灯明皿と判断される。28はタイ産の黒釉陶器双耳壺である。2次被熱により外面の軸は発泡し変色する。30～33は京都系土師器皿で、器高が高くなるものである。34は凝灰岩製の五輪塔の相輪である。

SX020・SX001・SX015・SX040・SX060 出土遺物 (第16図)

1は朝鮮産無釉陶器の長胴瓶もしくは壺である。底部外面に目跡が残る。4は白色系土師器の坏で内外面にミガキ調整が施される。内面にはタールが付着する。搬入品であるものと判断されるものである。5は備前焼擂鉢である。

乗岡編年中世6期に相当するものである。6は中国産景德鎮窯系青花碗F群、7はベトナム産白磁碗、8は中国華南三彩陶器で器種は不明である。2次被熱により釉は変色する。13は青磁の瓶である。胴部外面の胴部には上半部に花卉文、下部に蓮弁文が施される。

4. まとめ

南小路町推定地に形成された遺構の遺存状況は極めて良好であり、標高4.6m(現地地表下40cm)で遺構が検出される。遺構は16世紀前半頃～16世紀末頃までに形成されたもので、重層的に分布する。遺構面は最低でも5面認められ、今回は調査の制約上、最下層までの掘削を行っていないものの、大きく2時期に区分される。

第1期に相当する遺構群は、16世紀前半頃に形成される。第3～第5遺構面において検出されるもので、16世紀末まで存続する建物が建設される段階である。具体的には、第3遺構面においては地盤改良のための掘り込み地業(SX020)が行われる。地業内には礎石建物が建設されていた可能性が高く、第4遺構面においてもほぼ同じ場所に礎石建物もしくは掘立柱建物が存在していた可能性が指摘される。

第2期に相当する遺構群は、16世紀後半～末頃に形成される。第1と第2遺構面において検出されるもので、第1期とほぼ同じ場所に地盤改良のための掘り込み地業(SX030)が行われる。地業内には礎石建物が建設され、火災を被り建替えが1回行われている。被災後には、地業の嵩上げが行われ、ほぼ同じ場所に礎石建物が建替えられるものの、再び被災したため廃絶したものと判断される。

また、16世紀後半～末頃における礎石建物跡の主軸方向の変化が注目され、座標北から東へ約4°振れる段階からほぼ座標北に近くなる。東へ約4°振れる方位は、16世紀後半頃に整備された第2南北街路の方向と合致し、大友氏館の拡大整備に伴う府内町再整備の基軸と位置付けられるものである。今回確認された礎石建物跡は、その基軸に合わせて建設されたものと判断される。建替え後の礎石建物については、主軸方向がほぼ座標北に近くなることから、第2南北街路の復原が当該地周辺で西側に振れていることを踏まえれば、道路に面を揃えて建設されたものと想定される。この点は第2南北街路の検出を待って検証する必要がある。

出土遺物については、焼土層を中心にして大量に出土している。その割合は貿易陶磁器が大半で土師器類は極めて少ない。また、焼土層からの貿易陶磁器の出土状況については、同じ器形のものが重なって出土している。具体的には、被熱した中国景德鎮窯系青花皿C群が焼土層(SX030第2層)から数個体が組まれた状態で出土し、融着したものも認められる。さらに、中国景德鎮窯系青花盤や鉢、同色絵鉢の大型品をはじめ、青磁瓶や白磁壺、中国華南三彩陶器鴨形水注や瓜形水注、タイ産陶器ノイ川窯焼締陶器四耳壺や同黒釉陶器双耳壺、ベトナム産白磁碗なども出土している。

以上のことから、第100次調査区において検出された遺構群は、今回の調査の制約上、形成時期がさらに遡る可能性はあるものの、16世紀前半頃に地盤改良を行い建てられた施設であり、それが16世紀末までほぼ同じ施設として存続したものであると判断される。当初は掘立柱建物である可能性はあるものの、16世紀後半から末頃には礎石建物となる。同じ第2南北街路の交差点に面し、大友氏館に近接する桜町推定地において発見された、豪商の屋敷と推定される礎石建物跡(中世大友府内町跡第12次調査)の礎石の大きさと比較した場合、桜町の礎石が0.3～0.4mのものが大半であり、本調査地点の礎石が極めて大きいことが分かる。建物規模の比較が今回の調査成果では不可能であるため詳細な検討はまだできないものの、京都の有力者の敷地が面積を広く占有できる町の中央部に多い点等を考慮すると(注7)、今回の調査地点が南小路町推定地のはば中央に位置することから、有力者の屋敷地である可能性が想定される。

最後に、今回の発掘調査の成果を踏まえて今後計画的な発掘調査が予定される第2南北街路推定地周辺部における調査の課題を抽出し、本報告のまとめとする。

①遺構密度

今回の調査区においては遺構の分布密度は100%であり、周辺においても高密度で分布しているものと判断される。また、遺構は重層的に分布しており、作業量は府内町の他の地点と比べても群を抜くものと想定される。開発との円滑な調整が必要となる。

②焼失した町屋の復元に資する調査記録作成

標高 4.6 m (現地表下 40 cm) で遺構が検出される。ここで留意すべき点は、これらの遺構を覆う焼土の堆積である。第 100 次調査区では、焼土が 16 世紀末に廃絶した土坑の埋土内とその上層、そして礎石建物跡を覆う状態で認められることから、南小路町一帯の被災直前の町屋の状況が復元できる可能性がある。このため、遺構や遺物の出土状況には十分な検討を行い、焼失した建物の構築部材や施設内の遺物の分布状況などの記録作成が必要となる。

③第 2 南北街路と隣接する建物群の検出

館の前面を通る府内町のメインストリートの範囲確認と隣接する建物群の主軸方向の確認、そして字図から復元された町屋 (建物) の短辺が交差点付近までの道路に面しているのか検証をする必要がある。桜町推定地における既往の発掘調査では、交差点に大区画が認められ、そこに礎石建物跡が検出されている。この建物跡は妻側を第 2 南北街路に面して建設されているものの、主軸方向は異なり、交差する東西道路に近似する。今後は府内町北側の今在家町や古川町推定地での検証を踏まえ、都市構造の実態解明を行う必要がある。また、屋敷地の形成時期や分布の検討も重要で、京都の町割が純粋に採用された都市なのか、それとも江戸城下町へと連なる新しい都市計画理念が採用された都市なのかを解明できる糸口になるものと考えられる。

④沖ノ浜に連絡する東西道路と第 2 南北道路周辺の遺構分布と変遷

南小路町の北側に位置する古川町は、府内町の初期から存続した可能性が高い東西道路に面している町である。この東西道路は、貿易港である沖ノ浜に繋がる道であり、戦国期には豪商・仲屋氏が屋敷を構えていたことが江戸時代の史料から推測される町屋である。また、府内町の初期の町屋が形成されている可能性も想定されることから、中世後半は勿論のこと、中世前半期の遺構確認を十分に行う必要がある。(塩地 潤一)

註 1 木村幾多郎 2001『豊後府内城下町移転と旧府内町』『大分・大友土器研究会論集』大分・大友土器研究会

註 2 大分県教育庁埋蔵文化財センター 2006『豊後府内 4』中世大友府内町跡第 9 次・第 12 次・第 18 次・第 22 次・第 28 次・第 48 次調査区 一般国道 10 号線古国府城址工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 (2) 大分県教育庁埋蔵文化財センター調査報告書 第 9 集
玉永光洋・坂本嘉弘 2009『大友系群の戦国都市・豊後府内』シリーズ「遺跡を学ぶ」056 新泉社

註 3 大分市史編さん委員会 1987『大分市史』中 大分市

註 4 坂本嘉弘 2001『1. 報告① 考古学から見た中世大友府内城下町の成立と構造』『中世大友再発見フォーラム 南宮都市・豊後府内 都市と交易』大分市教育委員会・中世都市研究会

註 5 大分市教育委員会 2009『大友府内 13』中世大友府内町跡第 53・57・59・60・73 次調査報告書 公共雨水管理施設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

吉田 寛 2000『第 V 章 まとめ 1. 小路遺跡出土の法について』『小路遺跡 上層敷遺跡』県営古手育成園整備事業西部地区に伴う埋蔵文化財報告書 II 大分県教育委員会

註 6 木村幾多郎 2008『首里城出土の鰐形水注—明代華南三彩陶の研究 4—』『九州と東アジアの考古学—九州大学考古学研究室 50 周年記念論文集—』下巻 九州大学考古学研究室 50 周年記念論文集刊行会

註 7 小島道裕編 2009『城下町の発達 3 豊後府内』『史跡で読む日本の歴史 7 戦国時代 吉川弘文館

玉永光洋 2013『戦国都市豊後府内 空間構造と府内再移転を中心として』『白杉史料』第 103 号 白杉史料会

調査番号	遺構番号	種別	形状	位置 (平面位置関係)			色相 特徴	出土 状況	備考	写真 撮影	付 属
				北緯 経度	東経 経度	東経 経度					
第1調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	1.642	13.81	-	中・中層	東山に目録あり 東山に目録あり 二次焼土	小笠原町跡	001
第2調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	3.149	13.81	-	中・中層に灰土層を伴う。白土		小笠原町跡	002
第3調査区	SA100	溝・土間・土壁	直	-	3.149	4.2	-	掘削後で焼土・白土		012	
第4調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	3.149	-	-	焼土・白土	基礎内外面に灰土 東山に目録あり 目録 7・10 参照	013	
第5調査区	SA100	溝・土間・土壁	直	-	3.149	5.9	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	014	
第6調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	015	
第7調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	016	
第8調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	017	
第9調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	018	
第10調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	019	
第11調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	020	
第12調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	021	
第13調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	022	
第14調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	023	
第15調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	024	
第16調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	025	
第17調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	026	
第18調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	027	
第19調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	028	
第20調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	029	
第21調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	030	
第22調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	031	
第23調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	032	
第24調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	033	
第25調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	034	
第26調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	035	
第27調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	036	
第28調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	037	
第29調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	038	
第30調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	039	
第31調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	040	
第32調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	041	
第33調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	042	
第34調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	043	
第35調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	044	
第36調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	045	
第37調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	046	
第38調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	047	
第39調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	048	
第40調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	049	
第41調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	050	
第42調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	051	
第43調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	052	
第44調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	053	
第45調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	054	
第46調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	055	
第47調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	056	
第48調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	057	
第49調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	058	
第50調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	059	
第51調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	060	
第52調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	061	
第53調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	062	
第54調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	063	
第55調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	064	
第56調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	065	
第57調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	066	
第58調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	067	
第59調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	068	
第60調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	069	
第61調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	070	
第62調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	071	
第63調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	072	
第64調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	073	
第65調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	074	
第66調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	075	
第67調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	076	
第68調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	077	
第69調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	078	
第70調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	079	
第71調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	080	
第72調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	081	
第73調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	082	
第74調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	083	
第75調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	084	
第76調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	085	
第77調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	086	
第78調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	087	
第79調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	088	
第80調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	089	
第81調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	090	
第82調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	091	
第83調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	092	
第84調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	093	
第85調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	094	
第86調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	095	
第87調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	096	
第88調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	097	
第89調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	098	
第90調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	099	
第91調査区	SA100	基礎・土間・土壁	直	-	4.642	-	-	溝・溝底に灰土層あり	二次焼土の灰土層に灰土層が生じる	100	

